



昭和100年を契機とした新たな分収造林の取り組み 関東森林管理局 森林整備課



森林が迎える転換期

昭和100年という節目を迎えるに当たり、関東森林管理局では「昭和100年記念分収造林^{ぶんしゅうぞうりん}」の取組を進めています。本取組は、戦後の復興期から高度経済成長期にかけて造成された人工林が本格的な利用期を迎えている中、先人たちが育ててきた森林資源を次世代へ確実に引き継ぐことを目的とするものです。

現在、我が国の森林は大きな転換期にあります。利用期を迎えた人工林では伐採が進みつつある一方で、その後の再造林をいかに確実に実施するかが重要な課題となっています。現場においては、苗木の確保や造林コストの上昇、担い手不足などにより、再造林に対する不安の声も聞かれています。



伐採後の再造林地

分収造林という仕組み

こうした課題に対応する手法の一つが、分収造林です。分収造林は、造林者が国有林に植栽を行い、保育や伐採を経て得られる収益を造林者と国が分け合う制度であり、これまでも民間の資金や労力を活用しながら森林整備を進めてきた仕組みです。



職員による苗木の植付指導



造林者による植付

昭和100年記念分収造林の特徴

今回の「昭和100年記念分収造林」では、こうした従来の制度と併せて、多様な樹種を育て、豊かな環境を育み、次世代へ引き継ぐ責任を分かち合うことをコンセプトにした分収造林を「グリーン・シェアリング」と名付け、様々な企業等にご参加いただくことを目指しています。



グリーン・シェアリングでは、契約期間を長期とし、皆伐面積を抑制するなど、環境に配慮した施業を基本としています。また、針葉樹に加え広葉樹を取り入れた多様な森林づくりを進めることで、生物多様性の保全や水源涵養機能の向上など、森林の公益的機能の発揮を図ることとしています。

現場から広がる連携

また、造林したことによる水源涵養機能、環境保全（温暖化防止）機能等の評価を数値化した「環境貢献度評価」を国からお知らせする仕組みも導入されています。これにより、企業等にとっては環境貢献活動をアピールしやすくなり、継続的な参画につながることを期待されます。

関東森林管理局管内においても、既に契約に向けた調整が進められている箇所もあり、公募候補地の公表や各種会議・イベント等を通じて、幅広い主体に対して参加の呼びかけを行っています。現場では、本取組を契機として、地域や企業との新たな関係構築が進みつつあります。



公募候補地の現場案内

HP リンク

関東森林管理局における
公募候補地のご案内 ▶▶



次の時代の森林づくりに向けて

森林は、木材の供給に加え、水源の涵養、国土の保全、地球温暖化の防止、生物多様性の保全など、私たちの生活を支える多面的な機能を有しています。これらの機能を将来にわたり持続的に発揮させていくためには、確実な再造林と計画的な森林整備が不可欠です。

本取組は、昭和の時代に築かれた分収造林の仕組みを現代の課題に即して活用し、次の時代の森林づくりへとつなげていくものです。関東森林管理局としては、今後とも多様な主体との連携を深めながら、持続可能な森林づくりを着実に推進していく考えです。

今月の“表紙” たきがわけいこく 深緑の滝川溪谷 （棚倉森林管理署）

福島県矢祭町やまつりの国有林内にある東北最南端の秘境「滝川溪谷」たきがわは、全長 3km、高低差約 300m の散策路内に見事な四十八滝が連続する県内でも珍しい秘境の地で、「福島の遊歩道 50 選」にも選ばれております。溪谷には、美しい滝、巨大な奇岩や天然の老木が茂り、春のカタクリ、夏の深緑、秋の紅葉など、一年を通じて訪れる人を魅了しています。



ちようし くち
銚子の口滝



溪谷をのぼった先にある休憩所・直売所
“滝川の里” **十割そば** がおすすめです！